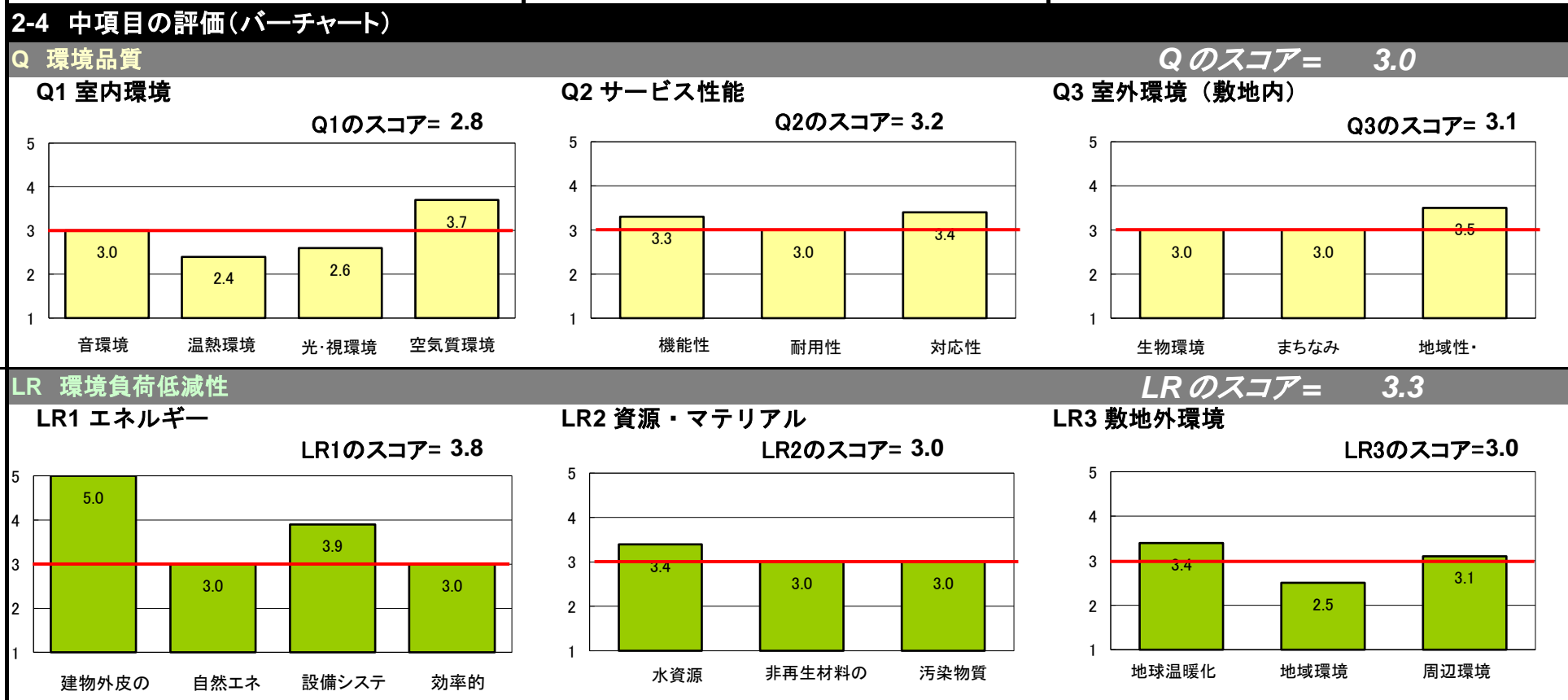
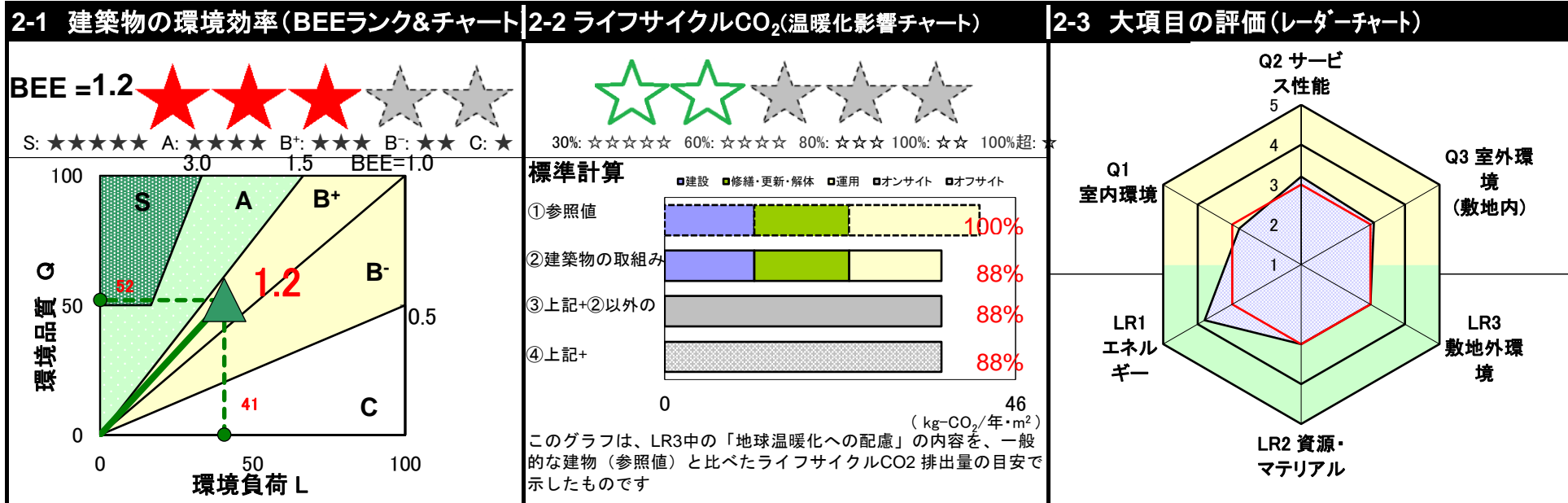


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)瀬戸市立小中一貫校 (体育)	階数	地上2階
建設地	愛知県瀬戸市中山町1-13,1-57(一)	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居地域	平均居住人員	1,230 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年2月	評価の実施日	2018年3月16日
敷地面積	37,270 m <sup>2</sup>	作成者	河村 佳高
建築面積	3,021 m <sup>2</sup>	確認日	2018年3月16日
延床面積	3,235 m <sup>2</sup>	確認者	河村 佳高



3 重点項目	
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p><b>3.4</b></p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p><b>3.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p><b>19.8 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p><b>0.0 %</b></p>
<p>②資源の有効活用</p> <p><b>3.0</b></p>	<p>④地域材の活用</p> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部						住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体
		Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境														2.8
1 音環境														3.0
1.1 室内騒音レベル														3.0
1.2 遮音														3.0
1 開口部遮音性能														3.0
2 界壁遮音性能														3.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														3.0
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0
1.3 吸音														3.0
2 温熱環境														2.4
2.1 室温制御														3.0
1 室温														3.0
2 外皮性能														3.0
3 ゾーン別制御性														3.0
2.2 湿度制御														3.0
2.3 空調方式														3.0
3 光・視環境														2.6
3.1 昼光利用														3.0
1 昼光率														3.0
2 方位別開口														3.0
3 昼光利用設備														3.0
3.2 グレア対策														3.0
1 昼光制御														3.0
3.3 照度														3.0
3.4 照明制御														3.0
4 空気質環境														3.7
4.1 発生源対策														3.0
1 化学汚染物質														4.0
F☆☆☆☆を利用している。														
4.2 換気														3.0
1 換気量														3.0
2 自然換気性能														3.0
3 取り入れ外気への配慮														3.0
4.3 運用管理														3.0
1 CO <sub>2</sub> の監視														3.0
2 喫煙の制御														5.0
敷地内禁煙としている														
Q2 サービス性能														3.2
1 機能性														3.3
1.1 機能性・使いやすさ														3.0
1 広さ・収納性														3.0
2 高度情報通信設備対応														3.0
3 バリアフリー計画														3.0
1.2 心理性・快適性														3.0
1 広さ感・景観 (天井高)														4.0
2 リフレッシュスペース														3.0
3 内装計画														5.0
1.3 維持管理														3.0
1 維持管理に配慮した設計														3.0
2 維持管理用機能の確保														3.0
2 耐用性・信頼性														3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0
2 免震・制震・制振性能														3.0
2.2 部品・部材の耐用年数														3.1
1 躯体材料の耐用年数														3.0
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														3.0
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														4.0
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0
給水管:SGP-VA、排水管:VPを採用														
2.4 信頼性														3.0
1 空調・換気設備														3.0
2 給排水・衛生設備														3.0
3 電気設備														3.0
4 機械・配管支持方法														3.0
5 通信・情報設備														3.0

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり		②	0.3	4.6	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	5.0	0.60	-	4.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	3.0	-
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17	-	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11	-	-	-
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出		独自③	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	-	4.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm結果=0.80	3.0	5.0	0.30	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEIm結果=0.71	3.0	3.9	0.30	-	-	3.9
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.0
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			洗面は自動水栓・便器は節水FVを採用	3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	
1			雨水利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.67	-	-	
2			雑排水等利用システム導入の有無	3.0	3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.0	0.63	-	-	3.0
2.1 材料使用量の削減				-	3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	3.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材		独自	陶磁器廃材を利用した舗装用ブロック	3.0	3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自		3.0	3.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-	
1			消火剤	-	-	-	-	-	
2			発泡剤(断熱材等)	-	3.0	0.50	-	-	
3			冷媒	3.0	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.0
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率: 88%	-	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				0.3	2.5	0.33	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.0	0.25	-	-	
1		独自	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	
2			汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3		独自	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
4			廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	
1		独自	騒音	-	3.0	0.33	-	-	
2		独自	振動	-	3.0	0.33	-	-	
3			悪臭	-	3.0	0.33	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	
1			風害の抑制	-	3.0	0.60	-	-	
2			砂塵の抑制	-	3.0	0.20	-	-	
3			日照障害の抑制	-	3.0	0.20	-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20	-	-	
1			屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	4.0	0.70	-	-	
2			屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	



**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)瀬戸市立小中一貫校 (体育館)

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.4</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.0</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.0	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	外構緑化:19.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称) 瀬戸市立小中一貫

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域との協働の関係づくりを促進する学校</li> <li>②将来にわたっての持続性を持った学校</li> <li>③永く郷土への愛着を持たせることができる学校</li> </ul>
Q1 室内環境	<p>建基法規制対象外となる建築材料にもF☆☆☆☆採用するとともに館内を禁煙として、室内の空気を健全に保っています。</p>
Q2 サービス性能	<p>天井高さ2.7m以上 陶磁器産地である瀬戸の地域性を活かした内装コンセプトと、内観パースによる内装計画を検討しています。また、室用途に応じた照明計画を検討しています。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>ビオトープを設置し、環境学習に利用できるようにしています。 既存樹の保全と、自生種(アラカン、ヤマモモ、ヤマモミジ、クヌギ、ヤマザクラ)を積極的に採用した植栽計画を行っています。 地元の人が自由に通れる歩道と玄関前広場を提供しています。 開放性のある建具と庇下空間により、建物内外を連続させる豊かな中間領域を形成しています。</p>
LR1 エネルギー	<p>外皮には適切な断熱を施し、ガラスには複層ガラスを採用して、熱負荷を抑制しています。また、全熱交換器、LED照明、太陽光パネルを採用して、設備の高効率化を図っています。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>節水器具の採用。</p>
LR3 敷地外環境	<p>駐車スペースを十分に確保したゆとりある建物配置</p>
その他	<p>特になし。</p>